

製品名: TFIIA- α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18829**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	42kDa

抗原情報

遺伝子名	GTF2A1
別名	GTF2A1; TF2A1; Transcription initiation factor IIA subunit 1; General transcription factor IIA subunit 1; TFIIAL; Transcription initiation factor TFIIA 42 kDa subunit; TFIIA-42
遺伝子 ID	2957.0
SwissProt ID	P52655
免疫原	抗血清はヒト TF2A1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

背景

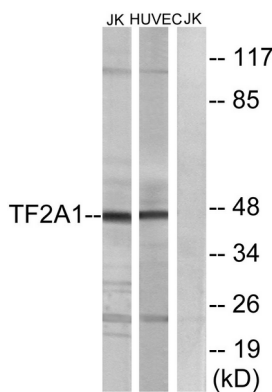
TATA を含むクラス II 遺伝子における正確な転写開始には、RNA ポリメラーゼ II (POLR2A; MIM 180660) といくつかの一般的な開

始因子 (DeJong and Roeder, 1993 [PubMed 8224848] による要約) の規則的な集合が関与している。これらの因子の1つがTFIIAであり、HeLa抽出物から精製されると、35 kD、19 kD、および12 kDのサブユニットから構成される。[OMIM 提供、2010年7月]、機能: TFIIAはRNAポリメラーゼIIの転写機構の構成要素であり、転写活性化において重要な役割を果たしている。TBPと複合体を形成したTFIIAは転写活性を媒介する。、PTM: α サブユニットと β サブユニットは、TASP1によって前駆体から翻訳後に生成される。この切断はプロテオソームによる分解を促進する。、類似性: TFIIAサブユニット1ファミリーに属する。、サブユニット: TFIIAは、未処理の大きなサブユニット1と小さなサブユニット γ からなるヘテロ二量体である。当初は、 α (p35)、 β (p19)、 γ サブユニット (p12) からなるヘテロ三量体であると考えられていた。TFIIAはTBPと複合体を形成する。、

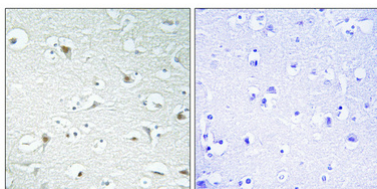
研究分野

基礎転写因子;

画像データ



TF2A1抗体を用いたJurkat細胞およびHUVEC細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。